

天気予報の言葉を読み取る

6年 情報の読み取り 12番

名前

「明日の天気は、晴れのちくもり。」テレビやインターネットの天気予報は、毎日の生活に欠かせない情報です。しかし、予報に使われる言葉には、実は細かい決まりがあります。その決まりを知らないと、情報を正しく受け取ることができません。

資料1は、ある町の週間天気予報です。曜日ごとに、天気・最高気温・降水確率が表にまとめられています。例えば土曜日を見ると、天気は「くもり一時雨」、降水確率は50%と読み取れます。

では、「一時」とは、どういう意味でしょうか。資料2を見てください。「のち」は、と中で天気が変わることを表します。「一時」は、その天気が続けて現れ、その時間が全体の四分の一より短いこと。「時々」は、その天気がくり返し現れ、合計が全体の半分より短いことです。同じ雨の予報でも、言葉によって、雨のふり方はまったくちがうのです。

天気予報を正しく読み取る力があれば、かさを持っていくか、洗たく物を外にほすかなど、自分で考えて行動を決めることができます。予報は、ただながめるものではなく、読み取って使うものなのです。

資料1 ある町の週間天気予報

曜日	天気	最高気温	降水確率
木	晴れ	28℃	10%
金	晴れのちくもり	29℃	20%
土	くもり一時雨	25℃	50%
日	くもり時々晴れ	26℃	30%
月	雨のち晴れ	24℃	70%

資料2 天気予報の言葉の決まり

言葉	意味
のち	と中で天気が変わる（例 晴れのち雨）
一時	その天気が続けて現れ、時間が全体の四分の一より短い
時々	その天気がくり返し現れ、合計が全体の半分より短い

気象庁のホームページ作成

(1) この文章で、筆者がいちばん伝えたいことは、どれですか。一つ選びましょう。

ア 天気予報は、必ず当たるとはかぎらないということです。

イ 天気予報は、言葉の決まりを知って読み取り、使うものだということ。

ウ 天気予報を見れば、洗たく物は必ず外にほせるということ。

エ 雨の日には、かさを持っていくべきだということ。

(2) 資料1の表を見て答えましょう。土曜日の降水確率は、何パーセントですか。

(3) 「晴れのちくもり」の意味として正しいものを、資料2をもとに一つ選びましょう。

ア 晴れとくもりが、くり返し現れる。

イ と中で、晴れからくもりに変わる。

ウ くもりの時間が、全体の四分の一より短い。

エ 一日中、ずっと晴れが続く。

(4) 土曜日の「くもり一時雨」の日、雨のふり方はどうなると考えられますか。資料2をもとに一つ選びましょう。

ア 一日中、ふり続く。

イ 続けてふるが、その時間は全体の四分の一より短い。

ウ くり返しふり、合計は全体の半分より長い。

エ まったくふらない。

(5) 「一時」と「時々」のちがいを、現れ方と時間の長さが分かるように、資料2の言葉を使って書きましょう。

天気予報の言葉を読み取る

6年 情報の読み取り 12番

名前

「明日の天気は、晴れのちくもり。」テレビやインターネットの天気予報は、毎日の生活に欠かせない情報です。しかし、予報に使われる言葉には、実は細かい決まりがあります。その決まりを知らないで、情報を正しく受け取ることができません。

資料1は、ある町の週間天気予報です。曜日ごとに、天気・最高気温・降水確率が表にまとめられています。例えば土曜日を見ると、天気は「くもり一時雨」、降水確率は50%と読み取れます。

では、「一時」とは、どういう意味でしょうか。資料2を見てください。「のち」は、と中で天気が変わることを表します。「一時」は、その天気が続けて現れ、その時間が全体の四分の一より短いこと。「時々」は、その天気がくり返し現れ、合計が全体の半分より短いことです。同じ雨の予報でも、言葉によって、雨のふり方はまったくちがうのです。

天気予報を正しく読み取る力があれば、かさを持っていくか、洗たく物を外にほすかなど、自分で考えて行動を決めることができます。予報は、ただながめるものではなく、読み取って使うものなのです。

資料1 ある町の週間天気予報

曜日	天気	最高気温	降水確率
木	晴れ	28℃	10%
金	晴れのちくもり	29℃	20%
土	くもり一時雨	25℃	50%
日	くもり時々晴れ	26℃	30%
月	雨のち晴れ	24℃	70%

資料2 天気予報の言葉の決まり

言葉	意味
のち	と中で天気が変わる（例 晴れのち雨）
一時	その天気が続けて現れ、時間が全体の四分の一より短い
時々	その天気がくり返し現れ、合計が全体の半分より短い

気象庁のホームページで作成

(1) この文章で、筆者がいちばん伝えたいことは、どれですか。一つ選びましょう。

ア 天気予報は、必ず当たるとはかぎらないということです。

イ 天気予報は、言葉の決まりを知って読み取り、使うものだということ。

ウ 天気予報を見れば、洗たく物は必ず外にほせるということ。

エ 雨の日には、かさを持っていくべきだということ。

(2) 資料1の表を見て答えましょう。土曜日の降水確率は、何パーセントですか。

五十パーセント(50%)

(3) 「晴れのちくもり」の意味として正しいものを、資料2をもとに一つ選びましょう。

ア 晴れとくもりが、くり返し現れる。

イ と中で、晴れからくもりに変わる。

ウ くもりの時間が、全体の四分の一より短い。

エ 一日中、ずっと晴れが続く。

(4) 土曜日の「くもり一時雨」の日、雨のふり方はどうなると考えられますか。資料2をもとに一つ選びましょう。

ア 一日中、ふり続く。

イ 続けてふるが、その時間は全体の四分の一より短い。

ウ くり返しふり、合計は全体の半分より長い。

エ まったくふらない。

(5) 「一時」と「時々」のちがいを、現れ方と時間の長さが分かるように、資料2の言葉を使って書きましょう。

(例) 「一時」は、その天気が続けて現れ、時間が全体の四分の一より短い。「時々」は、くり返し現れ、合計が全体の半分より短い、というちがいがい。

解答・解説 天気予報の言葉を読み取る（6年・情報の読み取り）

問1 イ

最後の段落に「予報は、ただながめるものではなく、読み取って使うものなのです」とあります。言葉の決まり（資料2）を知って正しく読み取ることが、文章全体のテーマです。

問2 五十パーセント（50%）

資料1の表で、土曜日の行の「降水確率」の列を見ます。表は「行」と「列」を組み合わせ読み取ります。

問3 イ

資料2に「のち＝と中で天気が変わる」とあります。「晴れのちくもり」は、はじめ晴れて、と中でくもりになるという意味です。アは「時々」、ウは「一時」の説明です。

問4 イ

資料2に「一時＝その天気が続けて現れ、時間が全体の四分の一より短い」とあります。ウは「合計が半分より長い」となっているので、「時々」の説明としてもまちがいです。

問5 （例）「一時」は、その天気が続けて現れ、時間が全体の四分の一より短い。「時々」は、くり返し現れ、合計が全体の半分より短い、というちが

い。

「続けて／くり返し」（現れ方）と「四分の一より短い／半分より短い」（時間の長さ）の両方が書けていれば正かいです。